

# 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち1枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	緒方 重則議員	1 国民健康保険事業の現状	<p>財政的に非常に厳しい状況であると思うが、平成30年からの一部改正も決まり現状のままで大丈夫なのか、その取組と改善点について伺う。</p> <p>(1) 歳入            ア. 所得水準や年齢構成から見える現状は。            イ. 保険税の収納率は。            ウ. 平成27年度から及び平成29年度以降の財政支援の拡充            エ. 今後も法定外繰入れを継続せざるを得ないのか。</p> <p>(2) 歳出            ア. 所得水準や年齢構成から見える現状は。            イ. 健康維持の取組            ウ. ジェネリック医薬品の活用や薬局との関わり</p>	市長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち2枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
2	福本千枝子議員	<p>1 「地域おこし協力隊」の活用でまちの活性化を</p> <p>2 災害時における避難施設の状況について</p> <p>3 「KOB A式トレーニング」を全校に普及を</p>	<p>(1) 「地域おこし協力隊」は地域力の創造・地方再生を目的とし、国が今進める「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とマッチするのではと考える。全国の自治体では、農産物の販売、特産品の紹介、情報発信、民宿の運営などの活動で、地域おこしを図っている。伊佐市の基幹産業は農業である。JAの支所も縮小される状況であり、農家の存続も危惧される。新しい感覚、新しい風を入れ活動してみてはと思う。この事が定住に繋がる目的もある。市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 今年も梅雨の季節となった。大雨の災害がなければと思う。5月29日屋久島町の口永良部島の新岳が爆発し、島民全員が避難され、体調を崩された方も出た。今後長い避難生活が始まるようだ。本市は火山こそないが、平成18年の県北部豪雨災害では死亡者も出て、多くの方々が被災された。災害はいつ何時起こるか分からない。日頃の避難訓練も重要となる。そこで                      ア. 市内何か所が避難施設として指定されているのか（自治会の公民館とは別に。）                      イ. その施設のトイレ、座イス、毛布等の状況はどうか。                      ウ. 避難が長期化した場合、食料品はどこにどれだけ備蓄されているのか。</p> <p>(1) 児童・生徒の体力、学力アップを目的に「KOB A式トレーニング」が大口小6年生、田中小5・6年生を対象に指導が始まった。見学したが、誰にでもできる体感トレーニングであり、子ども達から高齢者までも出来る実感した。早めの導入で結果が出るのではと考えるが、市内全ての小・中学校取り組むべきではないか。教育長の見解を伺う。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p> <p>教育長</p>	



## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち4枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
4	市来 弘行議員	1 老朽化が進む消防分団詰所の建替え促進について	<p>現在、大口地区の分団については、各地区の班統合に合わせた新しい分団詰所の建設がなされている。防災拠点としての機能の強化も図られ、地域住民により一層の安心感をもたらし、また、団員の士気向上につながっていると聞いた。こうした取組が、今後もさらに続いていくことを強く望みたい。</p> <p>ところが、その一方で、市内に点在する各消防分団詰所の老朽化が一段と進んでいるという実態を、改めて知ることとなった。</p> <p>この課題に対して、どのような具体策を考えておられるのか、以下の諸点につきお伺いしたい。</p> <p>(1) 各分団詰所の老朽化について、現在どのような状態であると認識しておられるのか。</p> <p>(2) 建替えを含め、早急な対策、また、予算措置が必要なのではと考えるが、その具体策について伺う。</p> <p>(3) 各地域の消防分団詰所について、その求められる役割がより一層大きくなってきたように感じる。</p> <p>地域住民の安心・安全を守るという「防災拠点」としての機能強化への要請である。</p> <p>この点について、どのように考えておられるのか。</p>	市長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち5枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	山下 和義議員	1 地域コミュニティの形成と校区外就学について	<p>地方創生を考えると伊佐市は各校区の発展がなければならないと思う。その中でも地域コミュニティと小学校はどうしても切り離すことはできないと思う。</p> <p>(1) 小学校の再編について、市長は前から考えていないということを言われている。現在もそういう考えか。</p> <p>(2) 平成27年度の伊佐市内の小学校の児童数は1,192人で、そのうち校区外就学をしている児童が45人、小規模特認制度転入学が9人である。大きな学校から小さな学校に校区外就学することで、小さな学校の複式が解消されることがある。それは児童のためには非常に良いことであると思う。しかしながら、どちらかという伊佐市の場合には小さな学校から大きな学校に校区外就学をしている。いろいろな家庭の事情があると思うが、結果として小さな学校が複式になる場合が出てくると思う。このことに対して市長・教育長はどのような見解をお持ちか伺いたい。</p> <p>(3) 児童等のいる家庭で、小さな校区に家等を新築する場合の補助等を検討できないか。</p> <p>(4) 児童が少なくなっている小学校区の市営住宅のトイレ等の改修を積極的に取り組んでいただいて若者が地域で暮らせる環境作りを推し進めていただきたいと思うがどうか。</p> <p>(5) 校区外就学の審査方法等はどのようにされているのか。校区外就学審査委員会（仮称）等の設置を検討できないか。</p> <p>(6) 地域に小学校の児童等がないことで、将来いろいろな伝統行事ができなくなったりするのではないかと思う。市長の本気度を伺う。</p>	市長 教育長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち6枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
		<p>2 国民健康保険事業の今後の運営について</p>	<p>持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律案等が、今、国で検討されている。主な内容として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国保の財政支援の拡充、都道府県が国保運営の中心的な役割を担う。</li> <li>○ 後期高齢者支援金の全面総報酬割の導入</li> <li>○ 負担の公平化等（入院時の食事代等の引き上げ）</li> <li>○ その他（医療費適正化計画の見直し、予防、健康づくりの促進等）</li> </ul> <p>を、平成30年4月1日から施行していくことが示されている。伊佐市の国民健康保険事業は、平成26年度に保険税の値上げを行った。また、法定外繰入金も1億5,000万円した。しかしながら、平成26年度決算見込は今回の補正予算に示されているとおり27年度分から1億2,000万円弱の繰上げ充用をしなければ支払えない状況である。そこで市長に次のことについて伺いたい。</p> <p>(1) 本来国民健康保険税は目的税である。伊佐市の現状をどう解釈されるか。</p> <p>(2) 伊佐市集中改革プラン（平成27年度～31年度）で国保会計への法定外繰出を毎年1億5,000万円見込んでいる。27年度はすでに約1億円のお金を26年度分として使っている。本年度の法定外の繰出しは1億5,000万円足りるのか。</p> <p>(3) 集中改革プランの財政計画で一般会計も28年度以降単年度収支はマイナスである。国保会計の単年度不足分の清算時期を示せ。</p> <p>(4) 市民に対する説明の方法等は。</p>	市長	

## 平成 27 年第 2 回定例会一般質問

平成 27 年 6 月 22 日・23 日・24 日

(14枚のうち7枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	沖田 義一議員	<p>1 曾木の滝、曾木発電所を一体とした観光開発、観光客の増加対策について</p> <p>2 男子・女子の駅伝選手の確保等について</p>	<p>(1) 曾木の滝と発電所周辺は一つの観光地として整備する必要があると考えているが、このことについて伺いたい。</p> <p>(2) 現在、県道 404 号線等の整備が進んでいるが、整備計画と進捗状況について伺いたい。</p> <p>(3) 旧曾木大橋が解体され平成 28 年には終了するが、50 年以上にわたって私たちの目に焼き付いている。無くなると我々の観光地としての見方も発想も変わって来ると思うが、これについて伺いたい。</p> <p>(4) もみじ祭りの観光客、車の対処の検討について伺いたい。</p> <p>(5) R V パーク、レンタサイクルの利用状況について伺いたい。</p> <p>(1) 少子高齢化等に伴う人口の減少、またスポーツの多様化等に伴い選手の確保が難しくなっている対策について伺いたい。</p> <p>(2) 選手の練習や出場等に理解を示している企業等について何かしらの事は検討できないか。</p> <p>(3) 伊佐市の小中学校のスポーツ力は落ちている。原因と対策について伺いたい。</p>	<p>市 長</p> <p>市 長 教 育 長</p>	

# 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち8枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	久保 教仁議員	1 基幹産業・農業と市勢は	<p>(1) 伊佐市の基幹産業は農業。農業算出額は。全国・県内ランキングは。</p> <p>(2) その部門別の面積・販売農家数・農業算出額は。耕種・畜産・加工農産物別に示せ。</p> <p>(3) 重点野菜10品目の算出額は、全体の何%か。</p> <p>(4) 個人市民税の納税額は。そのうち、農業者の納税額はいくらか。それは全体の何%を占めているか。また、農業者納税で高齢農業者及び小規模農業者の割合は。</p> <p>(5) 農業者の納税で、7・5・2割軽減を受けているのは、農業者納税全体に占める割合は。</p> <p>(6) 将来的に産地を目指すとした新重点野菜開発事業及び野菜農家の経営安定・所得向上を目指す野菜加工研究事業はこの8月が履行期限だが、成果は見られそうか。</p> <p>(7) 小規模農家・高齢者農家の所得安定・向上のための施策を講ずるべきではないか。</p>	市長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち9枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
8	諏訪 信一議員	1 伊佐市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	<p>地方創生の基本は、地方における人口減少を食い止めることにあることから、本市の最上位計画である第一次総合計画について伺いたい。</p> <p>(1) 伊佐市の計画期間、平成22年～32年の推定人口、人口減少について人口減少0、またプラスを目指すのか、市長の基本的な考え方を伺いたい。</p> <p>(2) 総合戦略策定に当たっては、県の総合戦略との整合性を図らなければならないとなっているが、県の総合戦略策定の時期並びにその概要はどのように承知しているのか。</p> <p>(3) 伊藤鹿児島県知事は、記者会見で鹿児島県の地方創生、総合戦略策定のポイントは農業と観光と述べているが、伊佐市は農業が主たる産業であることから、農業振興と総合戦略策定並びに人口増とをどうリンクしていこうとしているのか現段階での市長の見解を伺いたい。</p> <p>(4) 国は地方創生を進めるための新型交付金について検討しているが、使い勝手の良い交付金となるためには、市長は新しい交付金の枠組みを伴った計画に対してどのような考えか。また、長期の交付金とすべきと考えるが、市長の考えを伺いたい。</p> <p>(5) 創生関連事業の中に、地方に仕事をつくり安心して働けるようにする政策があり、伊佐市に合った事業があるか検討されたのか。</p>	市長	
		2 子育て支援について	<p>子育て支援の、子どもの医療費、保育料無料化、住居について</p> <p>(1) 第3子の利用費無料化に伴い、子育てにやさしい伊佐市を目指し、医療費、保育料の無料化は出来ないのか。</p>	市長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち10枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
		3 通学路の点検について	<p>(2) 子育て世帯が一番望んでいることは、子どもが病気になったときの対応施策だと思うが、子育て世代と対話される計画は。</p> <p>(3) 4戸の体験住宅を活用し、子育て世代へのIターンに対しての取組は出来ないか。</p> <p>(1) 5月15日、枕崎市の小学3年生の女子児童が増水した側溝に落ち死亡した。各学校とも危険箇所マップ等を作成し、児童にも周知徹底されていると思うが、雨期に入るので危険箇所の再度チェック等の取組はなされているのか。</p>	教 育 長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち11枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	柿木原榮一議員	1 高齢化率が50%以上の自治会の支援について	<p>(1) 現在、高齢化率50%以上の自治会が57か所あるが、地域が抱える課題の解決と市民が住み慣れた地域に安心して住み続けられる地域づくりを推進するため、どのように考えておいでか。</p> <p>(2) 自治会の支援活動のなかに見守りサービス、通院・買い物などの移動サポート、地域行事や交流事業などのコミュニティ活動の支援、伝統芸能や教育交流事業の支援、地産地消の推進のための取組の支援、観光資源の創出・発掘、道路・神社などの清掃、不法投棄パトロールなどの地域直結の支援などの方法は、対処できないものか。</p> <p>(3) 薩摩川内市が過疎化や高齢化が進む65歳以上の人口割合が60%以上の自治会区域で、独自の助成60%以上2万円、70%以上3万円、80%以上4万円、90%以上5万円の資金と人材派遣のゴールド集落支援を行っているが、市民活動の地域に直結した事業であるが、できないものか伺いたい。</p> <p>(4) 薩摩川内市は、市民活動支援補助金のスタートアップコース、これから活動を開始する又は活動期間が概ね3年未満の市民活動団体等が実施する公益的な事業に対して、初期段階で補助するものであり、市民活動の立ち上げに応援する事業である。市民活動支援補助金の考え方はないか。</p>	市長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち12枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
		<p>2 2014年12月質問の私有地を専有する国道問題の確認について</p>	<p>(1) 国道267号の伊佐市曾木小字朝畑2851、私有地の国道登記の解決はどの質問に、「昭和53年に旧大口市の国土調査で何らかの解釈違いか手続き違いがあったのか、詳細はわからない。本来、筆界未定地の未登記の国道を通すべきではない。訂正は可能である。来年2月頃には筆界未定地に引いてある国道のラインを全て取り消す手続きを終わらせる」という答弁であった。その後の進捗状況は。伊佐市議会だより25号で市民に公表していますので、お願いしたい。</p> <p>(2) 鹿児島県始良・伊佐地域振興局建設部長の回答で、「県としても筆界未定解消の必要性は理解しているところであり、今後、当該筆界未定地内の土地の境界が確定する見込みとなった場合には、改めて地籍図訂正の同意を検討する予定できている」とあるが、伊佐市はどのようにするのか。</p>	市長	

## 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち13枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	畑中 香子議員	1 国会審議中の「戦争法案」に対する市長の見解	(1) 憲法第98条、第99条により市長は憲法を守る義務があるが、憲法学者により「憲法違反」とされた法案について市長の見解を示せ。  (2) 本市出身の自衛隊員にとって、戦争により殺し、殺される危険が出てくるが、自衛官募集事務の一部委任を受けている自治体の首長として法案に明確に反対するべきではないか。	市長	
		2 非正規労働者の生活を守るための対策について	(1) 市内の非正規労働者の現状は。  (2) 今国会に法案が出されている「労働法制」が成立した場合の非正規労働者への影響は。  (3) 昨年7月4日の公務員部長名の通達に照らして、自治体非正規労働者に対する待遇改善がなされているかどうか。	市長	
		3 子ども医療費助成について	(1) 全国自治体の中でも最低水準となっているが、子育て日本一を目指すのであれば助成拡大を早急に検討するべきではないか。  (2) 助成拡大に対する子育て世帯の声について市長はどのように受けとめるか。	市長	
		4 生活道路の整備について	(1) 市道白木鳥巣線から4世帯の方の家へ通じる里道の路肩について、転落防止のための対策を行い、整備をするべきではないか。	市長	

# 平成27年第2回定例会一般質問

平成27年6月22日・23日・24日

(14枚のうち14枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
11	左近充 議員	1 2020年鹿児島国体について	(1) カヌー湯之尾会場は、国際大会が出来る幅員があるか。 (2) 左岸側道路整備について。 (3) 地元選手の育成・強化は行われているのか。	市長 市長 教育長	
		2 合宿所建設について	(1) 合宿所建設はどのようになっているか。 (2) 温泉シャワーを付けてとの要望があるが。	市長 市長	